

県中教研 美術部会だより

第 38 号

発行日 令和5年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 藤田みゆき
題 字 金山 泰仁 先生

造形的な視点を豊かにする

主任指導主事 濱本 良子

ある研修会からの帰途、車窓から見える「夕日に照らされ金色に輝く麦畑」と「勢よく成長する緑色の水稻」のコントラストに、思わず「きれい」と声が出てしまいました。すると同僚から「麦畑がきれいだと感じたことがなかった。先生がそう感じるのは、美術を教えているからだね」と言われ、はたと「自分は、美術の指導を通して、生徒の造形的な視点を豊かにできていたのだろうか」と、これまでの授業を思い返しました。

昨年度より完全実施された学習指導要領の美術科では、感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、自分としての意味や価値をつくり出しながら、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視しています。造形的な視点とは、「造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光等の造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴等からイメージを捉えたりする視点」のことで、美術科で育成する資質・能力を支える役割を果たすものとされています。このことから、題材においては「造形的な視点を育成する」という視点を明確にして構想し、授業を実践することが大切になります。

美術科においては、どの題材を活用して資質・能力を育成するかは、それぞれの学校・教師に任されています。それは、生徒の実態をよく知っている教師が、生徒が最も学ぶことができる授業を考えることがよいとされているからです。

授業を行う際には、造形的な視点を豊かにできる題材や指導計画になっているか、授業の中で確実に指導できているかを、目の前の生徒の姿から見取ることが重要だと考えます。美術科の授業を通して、生徒が生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる力を育んでいきましょう。

(西部教育事務所)

主体的な学びの実現を目指して

部長 藤田みゆき

今年度も県内各地で中学生の作品を展示する展覧会が開催されました。高岡市でも「クリエイティブ・たかおか」に力作が集まり、背景まで細かく描き込んだ自画像や、染色した生地にゴム印で装飾文様を施した手ぬぐい等、発想豊かな作品に心躍りました。展示作品からは生徒の思いや意図が伝わってきます。美術科の学習に主体的に取り組んでいる様子が感じられ、うれしくなりました。

反面、何をすればよいか分からない、アイデアが思い付かないなど、美術科の学習に苦手意識をもっている生徒もいます。研究大会の指導助言で、主任指導主事の濱本良子先生から「今日の授業で、評価規準に達していない生徒はいたでしょうか」と問いかけられたとき、ドキッとしました。日々の授業で生徒の学習状況を見取り、個に応じた必要な手立てを講じているかと考えたとき、不十分だったと改めて気付いたからです。

先日、所ジョージさんが話していた言葉が印象に残っています。「向いていないことも、やり出すと途中で何かあるんだよ。“めんどくさい”が面白い」。美術科の授業に消極的な生徒にも、こんな経験をしてほしいと思います。私たち美術科教師は、生徒が自分なりに意義を見だし、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組めるよう、日々授業改善に努めなければなりません。

今年度から3年間計画で、美術科の資質・能力の育成に向け、ICTの効果的な活用を切り口に研究を進めています。来年度は「B鑑賞」における研究です。表現と鑑賞の指導の関連を図るという視点からも意義ある取組といえます。ICTが有効な場面をよく吟味しながら、生徒が主体的に身の回りの造形や美術作品のよさや美しさ等を感じ取り、見方や感じ方を広げ深めることができるよう、部員相互の学び合いを通して研修を深めていきましょう。

(高・中田中)

第66回中学校教育課程研究大会美術部会

東 部 地 区 富山市立南部中学校

五本彩佳教諭による「南中ロゴマークプロジェクト」の授業は、感染症拡大防止のため、参加者は廊下や別室で見るという配慮の下に行われた。

本時は、レーダーチャートの結果やグループでの意見交流を通して、より全校生徒の印象に残る生徒会・専門委員会のロゴマークになるよう構想を練り直す活動であった。



指導者が描画方法を指定せずに、生徒自身がタブレットPCまたは手描きから、自分に適した描画方法を選択できるように配慮されていた。活動を通して、生徒たちは互いの客観的な意見を参考に、構想を深め、それぞれのよさを生かして制作に取り組んでいた。

濱本良子主任指導主事(西部教育事務所)からは「レーダーチャートは3つの視点に絞って活用したため、生徒が修正点をしっかり考えることができていた」「課題に沿って振り返らせることが大切」などの助言をいただいた。

部会協議②では、文部科学省の平田朝一調査官より、「美術科の特質や学習過程を踏まえたICTの効果的な活用」について講義を受けた。

講義の中で、「中学校時代に美術科で何を学んだか」と問われ、当時の自分は美術科の学びをあまり意識していなかったことに気付かされた。指導者として、「何を学ばせるのか」という視点で指導過程を見つめ直し、生徒自身が学びを実感できるようにすることが重要であると改めて感じた。その際には、学習指導要領の一文一文に込められたねらいを確認することが必要であり、ICTを題材のねらいに応じて使用し、新たな効果や学びの効率化が得られるようにすることが大切であるということを学んだ。

大菅 敦子(下・入善中)
島田 佳子(中・滑川中)

西 部 地 区 射水市立新湊中学校

嶋明子教諭による「藍染めで飾ろう」の授業は、藍染めの歴史や特性を学ぶとともに、制作した作品を生活環境を豊かにするために活用することで、生活や社会の中の美術や美術文化について学ぶことのできる題材であった。本時はICT機器を話し合い活動に取り入れ、発想を広げ構想を練る展開であった。会場の壁面には参考作品が展示され、先生が身に着けているブラウスにも藍染めが施されていた。さらに、いつでも染め方を確認できるように、工程が参考映像として用意されており、生徒の制作意欲を高める手立てが随所に見られた。話し合いの場面では、オクリンクを利用することで、生徒同士熱心にアドバイスし合い、すぐに手直しをする姿が見られた。また、提出BOXを利用することで、生徒はアイデアの変遷を確認することができ、教師も評価に生かすことができた。



部会協議①では、主にICTを利用した効果的な話し合いについて協議が行われた。濱本良子主任指導主事(西部教育事務所)からは、「ねらいに適した題材の設定」「表現と鑑賞を関連付けた指導計画」「ICT機器の効果的な活用」について助言をいただいた。

部会協議②では、藤田みゆき県部長より、前日に東部地区大会で行われた、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官平田朝一先生による「授業力向上のための講義」について伝達があり、その後戸出中学校の石黒教頭より、ICTの活用例について紹介があった。さらに、濱本良子主任指導主事からも活用例を紹介していただいた。授業力向上アドバイザーの講義については、毎年東部と西部の両地区で開催していただきたいという要望も聞かれた。

濱田 信子(氷・北部中)